

## 流域委員会での意見及び河川管理者の考え方

項目	区分	細別	現状と課題(事務局提示)	委員会での意見	河川管理者の考え方
治水	水位低下	河道掘削	豊田市では一部でHWLを超過し越水被害が発生。	痕跡水位で比較すると、中・下流域に比べて豊田市街地区間は非常に危険な状況。	鵜の首狭窄部により、上流の豊田市区間で水位が上昇しているため、鵜の首狭窄部を開削することにより、豊田市街地区間の水位低減を図ってまいります。
治水	水位低下	河道掘削	現況の河道は、整備計画規模の洪水に対して流下能力不足。	整備計画でHWLより水位を下げるための目標・内容を議論すべき。	矢作ダムでの放流施設の増強により、洪水調節機能を向上させることと、河道改修により整備計画対象洪水(東海(恵南)豪雨規模)を安全に流下させることを目標としております。
治水	水位低下	河道掘削	明治用水頭首工による堰上げが豊田市区間の水位上昇の要因。	豊田市街地区間の水位上昇の要因として、明治用水頭首工が開削しているものと考えられる。	東海豪雨が再来した場合、豊田市区間の水位上昇については、鵜の首狭窄部によるものが大きいことから、鵜の首地区の開削により、水位の低減を図ってまいります。
治水	水位低下	河道掘削	鵜の首狭窄部による堰上げが豊田市区間の水位上昇の要因。	鵜の首狭窄部を開削した場合に想定される問題を整理し、整備メニューの具体化を図る。	明治頭首工～豊田市区間の掘削について、環境・景観・高水敷利用等に配慮し、最適な掘削方法を実施してまいります。
治水	水位低下	河道掘削	河口堰中止に伴う治水の代替策が必要。	河口堰中止に伴う治水対策について具体化する必要がある。	矢作ダムでの放流施設の増強により、洪水調節機能を向上させることと、河道改修により整備計画対象洪水(東海(恵南)豪雨規模)を安全に流下させることを目標としております。
治水	水位低下	樹木伐開	柳枝工の柳が成長し、洪水流下の新たな阻害要因となっている。	河道内樹木について、環境・維持管理を踏まえ保全・伐開を検討する。	河道内樹木について、洪水時に支障となるものや、河川管理施設等に影響のあるものについては、地域の方々からの意見や動植物の生息・生育の場や水辺活動等を考慮して、必要な範囲で伐開することとしております。
治水	水位低下	洪水調節施設	河川整備基本方針では、洪水調節施設として矢作ダム以外の新規ダムが必要。	整備計画においても、他の洪水調節施設利用の可能性を議論すべき。	矢作ダムでの放流施設の増強により、洪水調節機能を向上させることと、河道改修により整備計画対象洪水(東海(恵南)豪雨規模)を安全に流下させることを目標としております。但し、基本方針では新たな洪水調節施設が必要となります。
治水	水位低下	洪水調節施設		上矢作ダムの建設を前提とするか否かで計画の方向性も大きく左右されるため、具体の目標について早急に議論したい。	矢作ダムでの放流施設の増強により、洪水調節機能を向上させることと、河道改修により整備計画対象洪水(東海(恵南)豪雨規模)を安全に流下させることを目標としております。但し、基本方針では新たな洪水調節施設が必要となります。
治水	水位低下	洪水調節施設	矢作ダムの堆砂の進行により有効貯水容量が減少し、治水・水容量への影響が懸念。	矢作ダムの有効貯水容量の確保に努める必要がある。	矢作ダム貯水池内の土砂堆積状況を把握し、ダムの維持及び下流河道への土砂供給を行うため堆砂対策を実施してまいります。
治水	水位低下	洪水調節施設		上矢作ダムを建設するのであれば、課題をきちんと審議しなくてはならない。	上矢作ダム建設案と建設しない案を比較検討し、矢作ダムの放流施設増強により、洪水調節機能を向上させることと、河道改修により整備計画対象洪水(東海(恵南)豪雨規模)を安全に流下させることを目標とし、上矢作ダムについては、見送ることとしております。
治水	危機管理対策	緊急用河川敷道路	「緊急用河川敷道路」の整備が行われていない。	災害時に河川が緊急輸送路的な役割を果たすことについても意識する必要がある。一方、地震時には緊急用河川敷道路が津波の遡上経路となることも配慮されたい。	災害時の緊急輸送路を確保するために、防災拠点、河川敷道路や堤防天端、防災用船着場等の整備を行うとともに、これらの施設と沿川の自治体が指定している緊急輸送路等を結ぶネットワークの構築を検討してまいります。
利水	河川水の適正な利用	水利用の合理化	本川系の水利権と、支川系水利権が存在している。	本川流量に影響のある支川も含めた水利権で議論する必要がある。	河川水の適正な利用を図るため、許可水利権については、使用水量の実態や給水人口の動向、受益面積や営農形態等の変化を踏まえて、水利権の見直しを行うとともに、慣行水利権の許可化を進めてまいります。
利水	河川水の適正な利用	水利用の合理化	農水の水利用設定値は降雨を考慮していないため水利権量に比べて実績取水量が少ない。また、上・工水も将来の水需要の見直しを考慮して設定しているため、水利権量に比べて現時点での実績取水量は少ない。なお、農水、工水、上水とも、過去には濁水による取水制限により必要量が取水できていない場合もある。	気象状況や社会情勢による社会基盤の変化を見据えた水利権量の見直しの議論も必要。流域における水利用を考えるならば、流域外から供給されている水について考慮すべき。	河川水の適正な利用を図るため、許可水利権については、使用水量の実態や給水人口の動向、受益面積や営農形態等の変化を踏まえて、水利権の見直しを行うとともに、慣行水利権の許可化を進めてまいります。
利水	流水の正常な機能の維持	水利用の合理化	近年、河川流量が減少している。自然流量では正常流量を概ね満足しているが、実績流量では夏期に異常高水年で基準流量を下回る日が続く。	ダム運用や設備改善の議論をする必要がある。	維持流量は満足しておりませんが、利水者間等で相互協力するような枠組みも出来上がりつつあり、水利用の合理化を推進するとともに、運用計画での対応となりますが、既存施設の活用を図ることで対応してまいります。
利水	流水の正常な機能の維持	水利用の合理化	昭和40年代後半から、水利用が増加し、濁水時には生物等の生息に必要な流量が不足している。	流域外への利用や、過大な水利用により、いつも水不足であるが、生物が生息する環境が破壊されてしまう状況に対して、公平かつ環境に配慮した対策をする必要がある。	ダム建設ありきでは無く、水利用の合理化について利水者との協議や既存施設の有効利用を図るため、関係者との協議を進めるとし、その後ダムの必要性を検討してまいります。
利水	流水の正常な機能の維持	既存施設の利活用の推進	矢作ダム完成以降の岩津地点では、矢作ダムによる不特定補給が十分でないため河川流量が減少し、河川環境のための流量が十分確保されていない。	環境に配慮した維持流量のための容量確保に努めるなど、ダムの運用規定や操作規則の見直しの検討が必要ではないか。	維持流量は満足しておりませんが、利水者間等で相互協力するような枠組みも出来上がりつつあり、水利用の合理化を推進するとともに、運用計画での対応となりますが、既存施設の活用を図ることで対応してまいります。
環境	河川環境の保全、再生	干潟、ヨシ原、砂州等の回復	水利用の増加、砂利採取、ダム建設等に伴い、流況や土砂供給量に変化が生じ、河相が変化している。	環境の保全・再生については、河川全体の視点も必要だが、部分的な視点での検討も必要。	干潟、ヨシ原、砂州及び砂礫底、樹林地、瀬・淵等から構成される「生物の生息生育場として配慮すべき場所」について、良好な河川環境の保全・再生に努めてまいります。
環境	河川環境の保全、再生	干潟、ヨシ原、砂州等の回復		「昭和40年代の環境を回復」を基本とするのであれば、その背景、上流域の状況を把握する必要がある。また、砂州を回復させようとするなら、移動床水理学の知見や研究最先端の実用化を図らなければ実現困難ではないか。	砂利採取、ダム建設、土地利用など人為的影響が少なかったS40年代の環境への回復を基本に考えています。一方、これまでの治水、利水事業の上に現代人の生活が成り立っている事を踏まえ、新たに形成された環境も保全します。砂州の回復については、研究機関の知見等も参考にモニタリングと並行して事業を進めてまいります。
環境	景観の保全	景観の保全		人間活動、景観、歴史的観点などを踏まえた上で、環境の議論をすべきである。	矢作川の特徴的な景観要素を保全するとともに、視点場や歴史的街並みとの一体化を図ってまいります。
環境	河川利用	水辺の利用	公園として河川敷が利用されている箇所は21施設である。今後、人と川とのふれあいと自然環境との共生が課題である。	現在の自然環境と利用状況等の相互関係について、ゾーニング等の観点を含め、議論する必要がある。	流域沿市町が計画している「緑の基本計画」、「水辺プラザ」や「水辺の楽校」計画について計画実現に向けた支援のための整備を行ってまいります。
総合土砂管理	ダムでの取り組み	土砂移動の連続性の確保	下流への土砂供給が減少し、陸域化や河床低下が回復せず、河口域の干潟への影響なども懸念されている。	流入土砂をバイパスさせることで、ダム湖への土砂の流入が低減し、河床低下も改善される。	矢作ダムに流入・堆積する土砂について、効果的・効率的な排砂方法について調査・検討し、必要な対策を行ってまいります。
総合土砂管理	ダムでの取り組み	土砂移動の連続性の確保		堆砂対策の事例を収集して、想定される課題を整理し検討したら良い。	堆積土砂の排砂等の方法について最新の知見を踏まえ、効果的・効果的な排砂等について検討し、必要な対策を行ってまいります。
総合土砂管理	ダムでの取り組み	土砂移動の連続性の確保		砂州の回復や樹木対策に対しては、下流のダムと連動した土砂対策が必要。直轄管理区間にどれだけ土砂が必要か議論されているか。	矢作ダムの排砂計画と併せ、下流河道における総合土砂管理方針について調査・検討し、必要な対策を行ってまいります。
維持管理	樹木管理	洪水時	河道内に樹木が繁茂し、流下阻害となることが懸念される。また、流出した場合は下流に被害を及ぼす懸念がある。	河川管理において、河道内樹木の保全・伐採をはっきりさせないと、適正な管理はできない。	河道内樹木について、洪水時に支障となるものや、河川管理施設等に影響のあるものについては、地域の方々からの意見や動植物の生息・生育の場や水辺活動等を考慮して、必要な範囲で伐開することとしております。
維持管理	樹木管理	平常時	密林状態に繁茂した樹木は不法投棄の温床になる可能性がある。	河道内樹木については、単年度での対策とせず、継続した管理が必要である。	河川管理に支障となる樹木群について伐開や間伐等の必要に応じた樹木管理を行ってまいります。